

平成 29 年度 「新入社員 意識調査」

今年の栃木の新入社員のタイプは“将棋アプリ型”

栃木県（一部栃木県外含む）の今年の新入社員のタイプは、日本生産性本部が命名した“キャラクター捕獲ゲーム型”というより、安定を求め一步ずつ確実に歩を進める“将棋”のイメージ。ただし、従来の将棋ではなく、ワークライフバランスを重視する新しい価値観が台頭してきていることから、新しいルールでいつでもどこでもできるゲームアプリをインストールしている“将棋アプリ型”。

<ポイント>

1. 就職活動の傾向 人手不足を受けて「売り手市場」に

- ◇ 新卒者の内定企業数は「1社」「2社」「3社」の順で例年同様だが、「3社」から内定をもらった新卒者は過去最高となり、一方「1社のみ」は過去最低を記録。企業の人手不足を受けて学生優位の「売り手市場」となった様子がみられた。

2. 新入社員の傾向 ワークライフバランス重視の価値観が台頭

- ◇ 会社を選ぶ基準では「自分が働きたい業界・業種」「通勤に便利など立地条件」「会社・上司の雰囲気が良い」の順だが、「業界・業種」「雰囲気」は過去最低に。替わりに、新しい選択肢の「残業がない・少ない」が9.6%となったほか、「休日が多い」が昨年と同じく過去最高の18.6%で、条件重視の傾向がみられる。
- ◇ 就職にあたり不安に感じていることは「仕事についていけるか」「上司や同僚など職場の人間関係」「生活環境や習慣の変化に対応できるか」の順。続いて、新しい選択肢「自分の時間が持てるか」(24.1%)が4位に入り、4人に一人が「自分の時間」を重視していることがわかった。また、新しい選択肢「(将来)家庭と仕事の両立ができるか」は女性15.6%に対して、男性13.1%とほぼ変わらず。家事や育児をする男性“イクメン”が新入社員の男性に浸透していることがうかがえる。
- ◇ 今年新たに加えた男性の育児休暇取得を問う設問では、全体の約8割が「ぜひ取りたい(ぜひ取ってもらいたい)」「できれば取りたい(できれば取ってほしい)」と回答。性別に関わらず多くが男性の育児休暇取得を希望していることがわかった。
- ◇ 仕事(残業など)と友人の約束(食事や飲み会など)が重なった場合は「なるべく仕事を優先」が突出して多いのは変わらないが、「どちらともいえない」が2位に。3位の「いつでも仕事を優先」は17.7%で過去最低となった。

<調査概要> ※本調査は平成22年度から実施しているものである。

(1) 調査期間 : 平成29年3月28日～4月26日

(2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県8回、群馬県1回、埼玉県1回、出張研修5回)

(3) 有効回答数 : 692名 (回答率 99.6%)

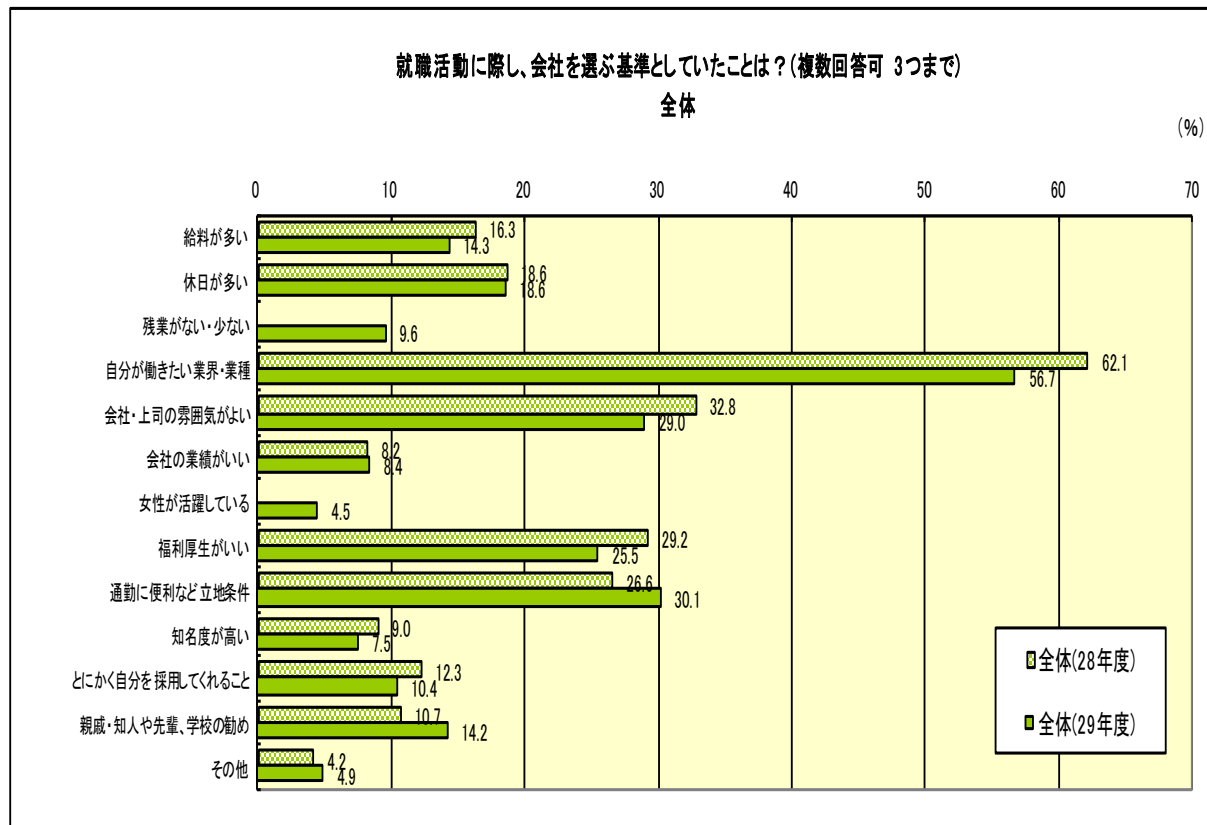
内 訳 : 男性356名、女性336名

大学・大学院 40.5%、高専・短大・専門学校 14.6%

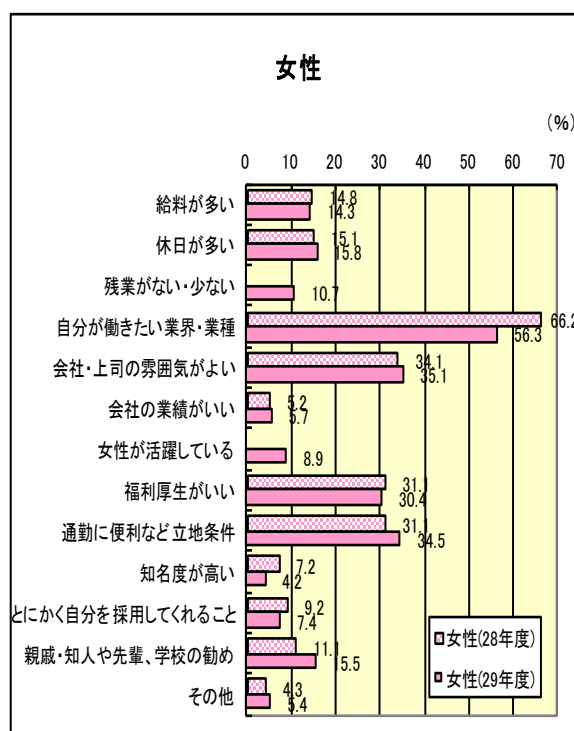
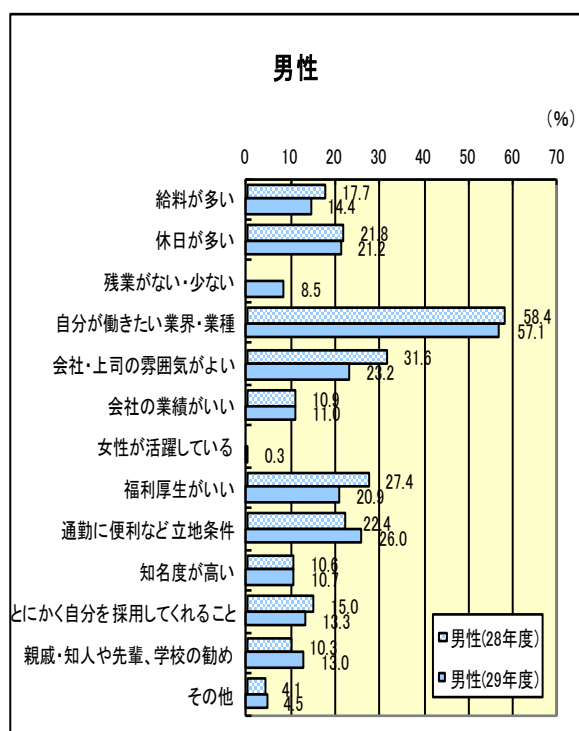
高校 25.7%、中途採用、その他 19.3%

1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」「通勤に便利など立地条件」「会社・上司の雰囲気が良い」の順となったが、1位の「自分が働きたい業界・業種」56.7%と3位の「会社・上司の雰囲気」29.0%は過去最低に。代わりに、新しい選択肢の「残業がない・少ない」が9.6%となったほか、「休みが多い」が昨年と同じ過去最高の18.6%、「通勤に便利など立地条件」が増加するなど、ワークライフバランス重視の傾向がみられた。

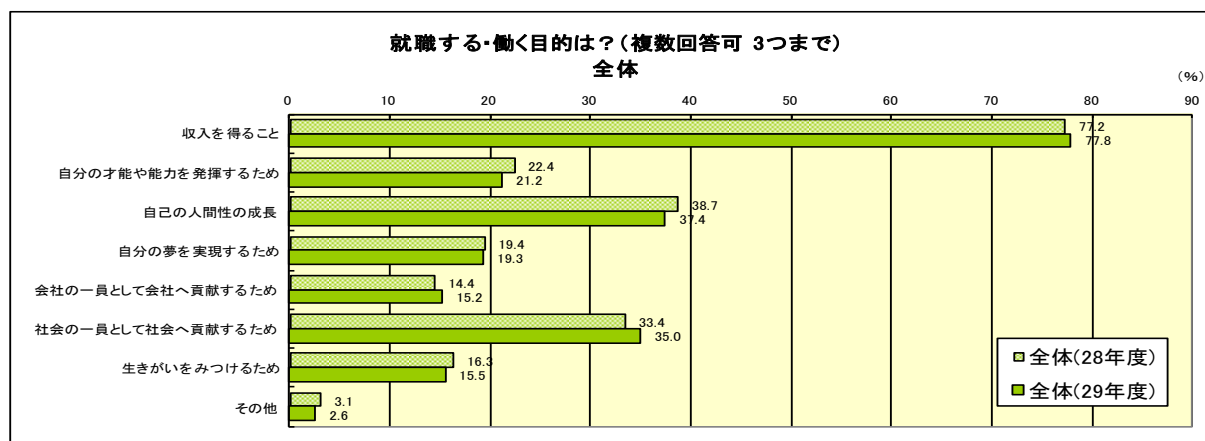
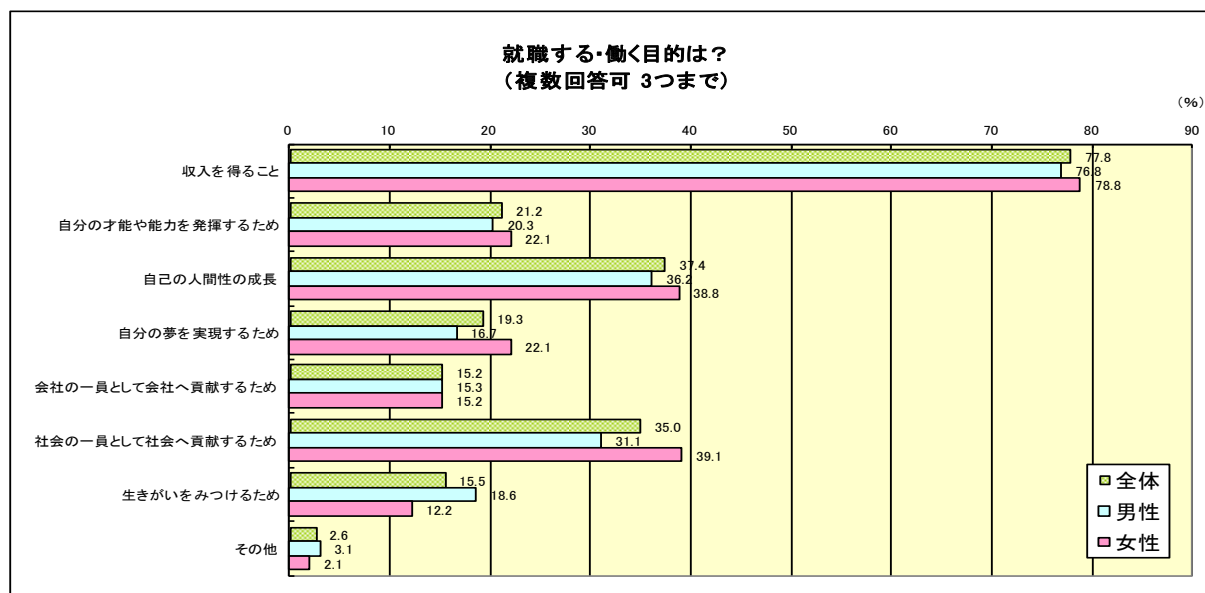


新たに加えた選択肢「女性が活躍している」は女性8.9%、男性はわずかだが0.3%が注目。「残業がない・少ない」は女性10.7%、男性8.5%と女性がやや上回る結果となった。

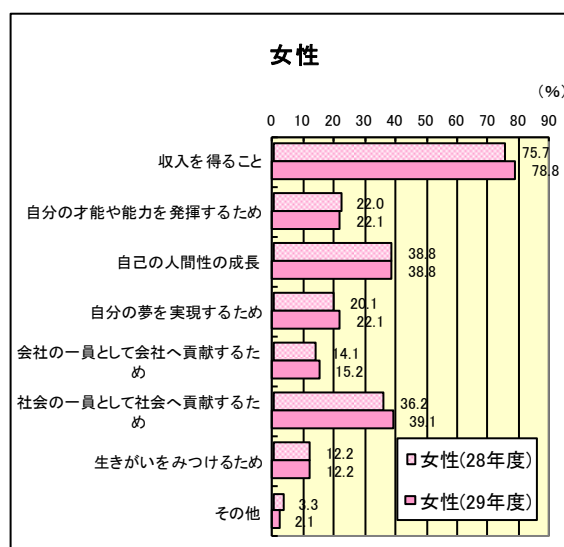
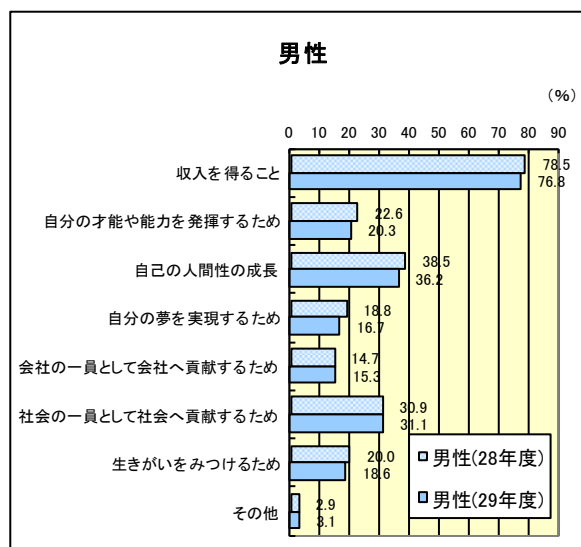


2. 就職する・働く目的は？

例年最も多い「収入を得ること」は増加し77.8%。過去最高だった22年度の78.0%に迫る数字となった。次いで「自己の人間性の成長」37.4%、「社会の一員として社会へ貢献するため」35.0%の順。1位の「収入を得ること」は、女性が過去最高の78.8%となり、男性の76.8%を抜いている。

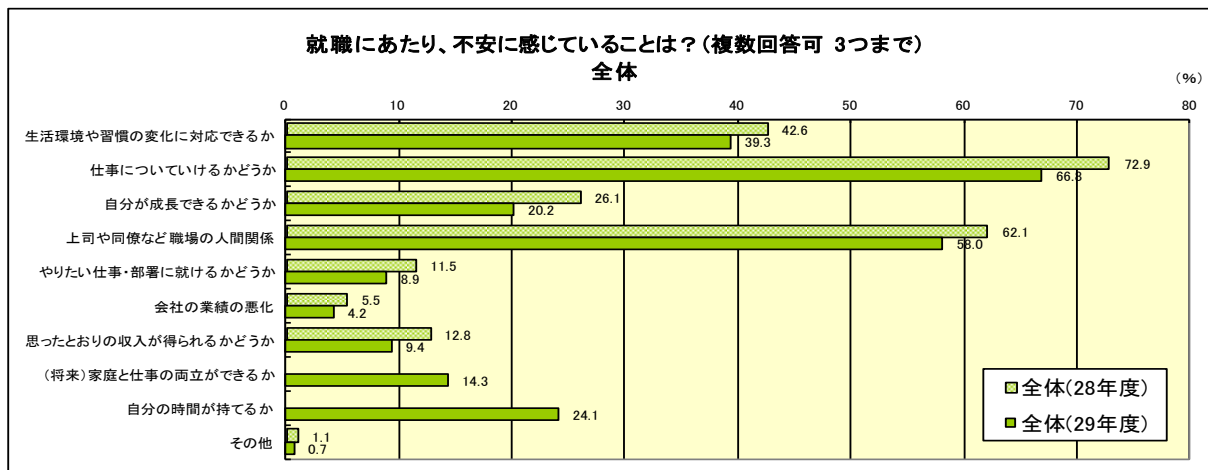
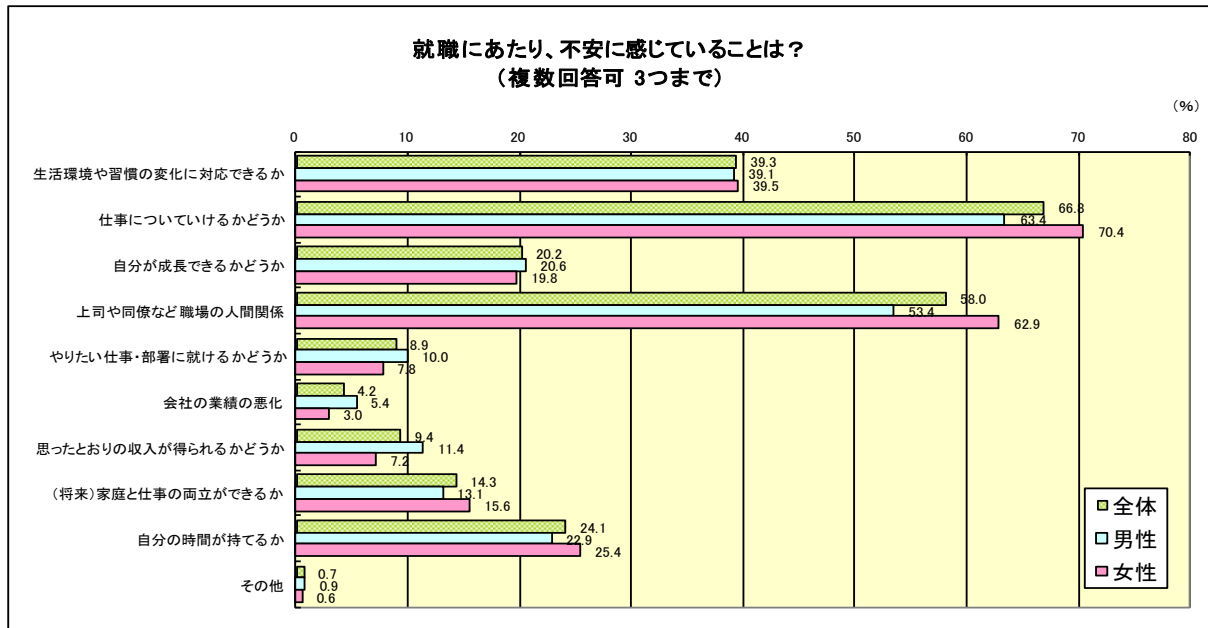


「その他」では「趣味に没頭するため」(男性)、「充実した私生活を送るため」(女性)といった自由記述も目立ち、働く目的の多様化が感じられた。

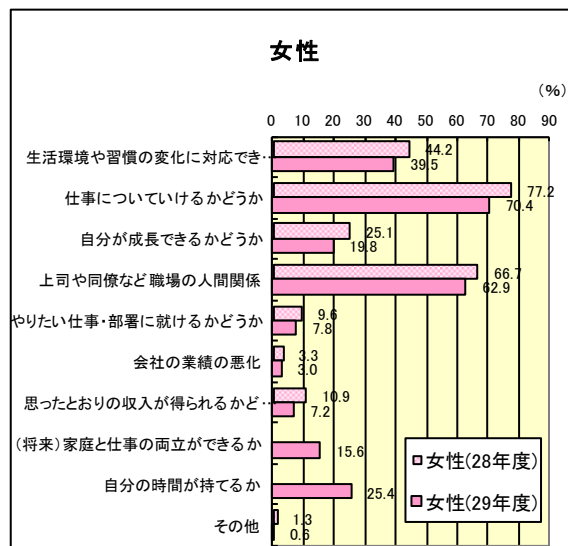
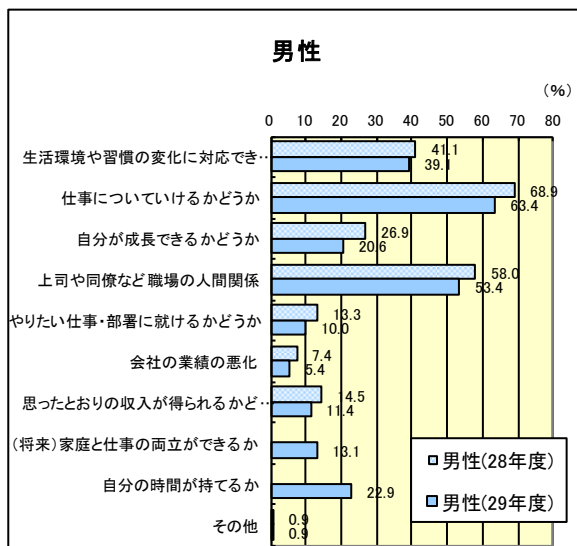


3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

例年同様「仕事についていけるかどうか」が最も多く、次いで「上司や同僚など職場の人間関係」「生活環境や習慣の変化に対応できるか」の順。新しい選択肢「自分の時間が持てるか」は4位で24.1%。4人に一人が「自分の時間」を重視している。

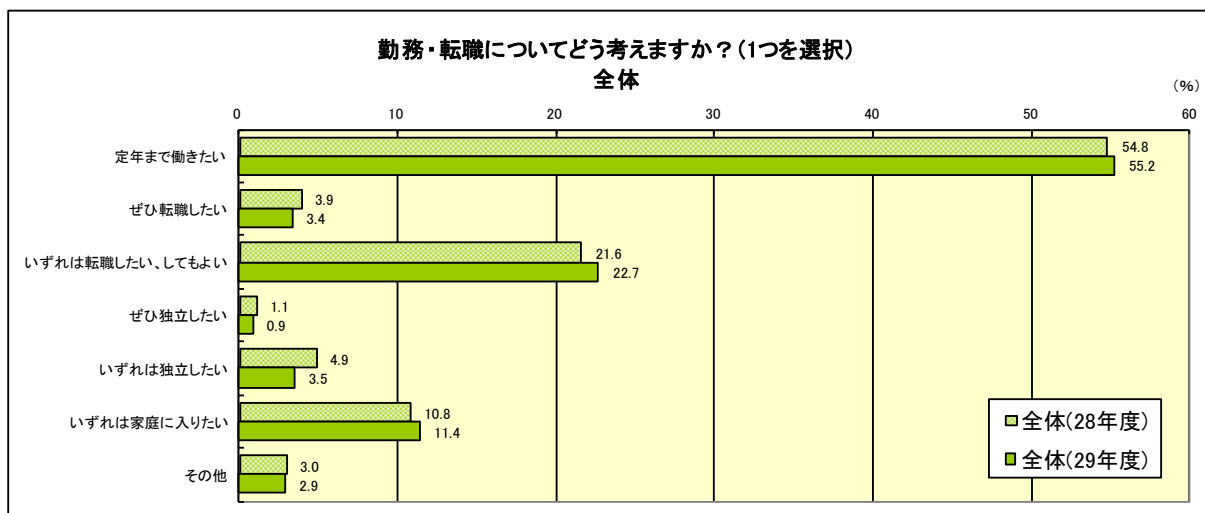
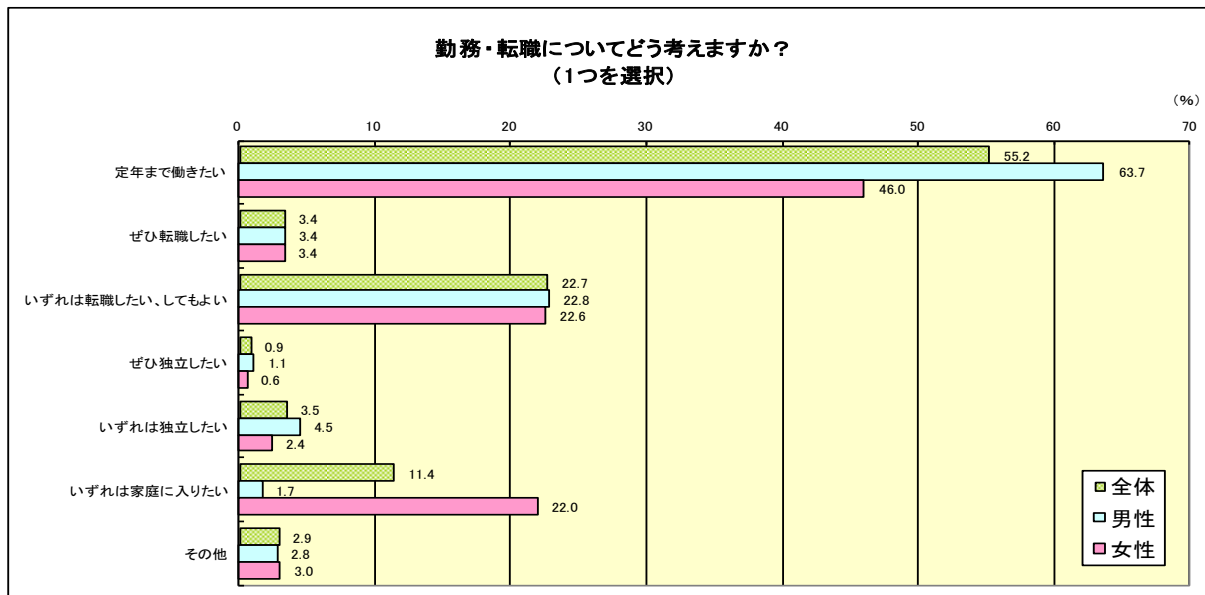


新しい選択肢「(将来) 家庭と仕事の両立ができるか」は女性 15.6%に対して、男性 13.1%とほとんど変わらず。男性の両立への覚悟が感じられる結果となった。

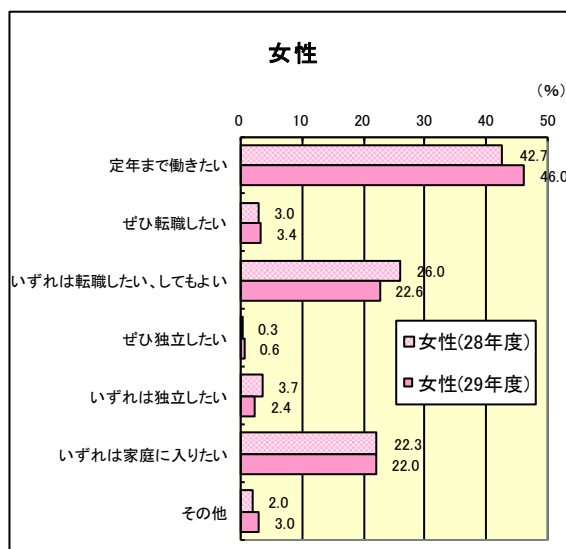
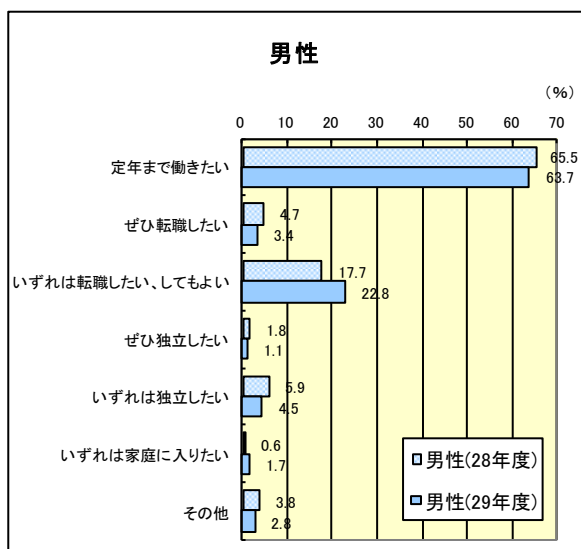


4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

「定年まで働きたい」が最も多く 55.2%、次いで「いずれは転職したい、してもよい」22.7%、「いずれは家庭に入りたい」11.4%の順で、全体に昨年同様の結果。「ぜひ独立したい」「いずれは独立したい」は合わせて 4.4%で過去最低。起業を望む新入社員は未だ少ない。

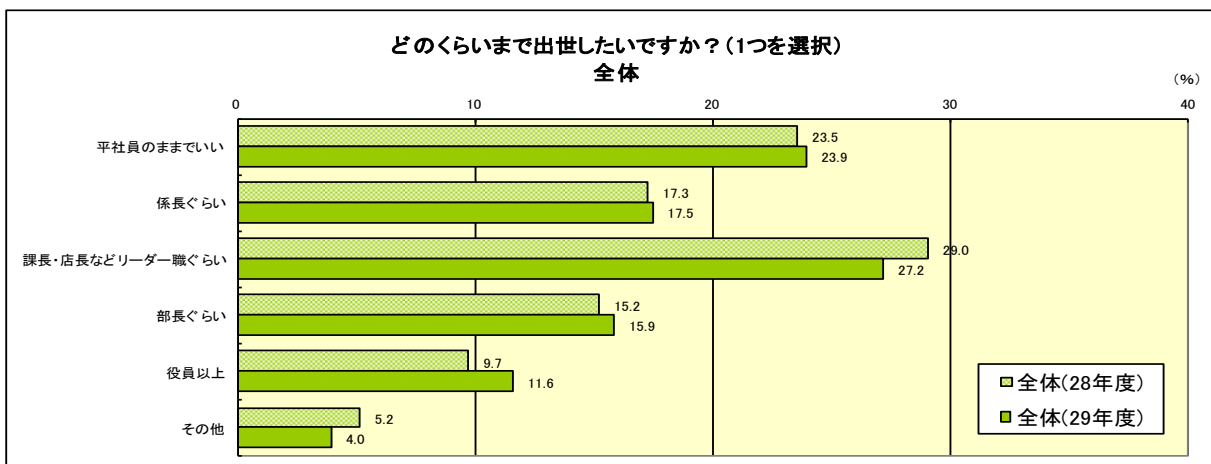
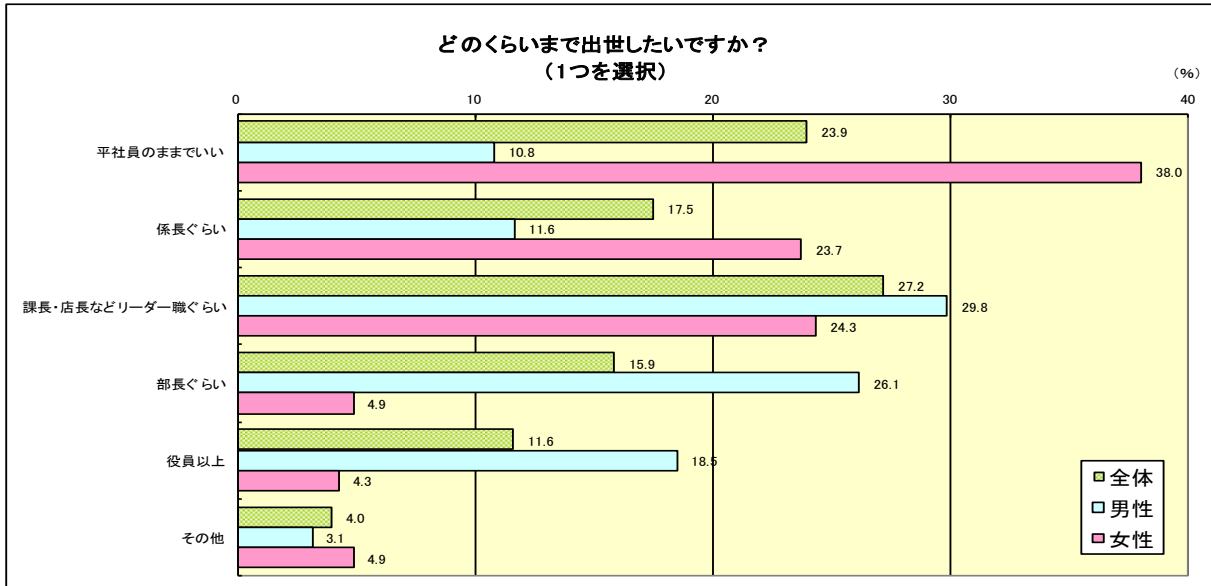


「いずれは家庭に入りたい」という女性は、3年連続で減少し過去最低の22.0%。自由記述などから、仕事と家庭のどちらかだけでなく両立を目指す女性が増えていることが見てとれる。

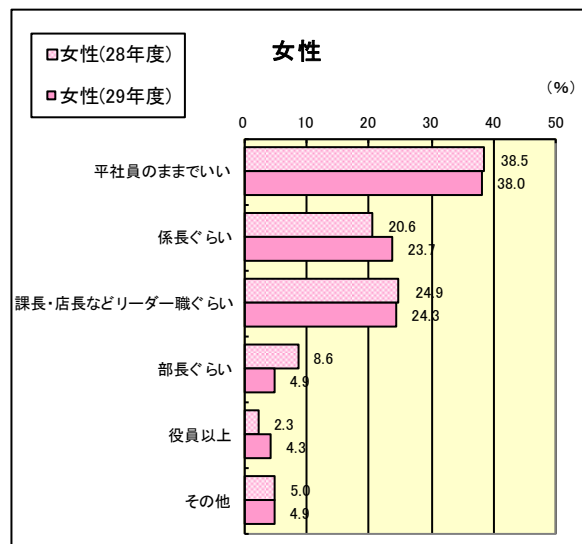
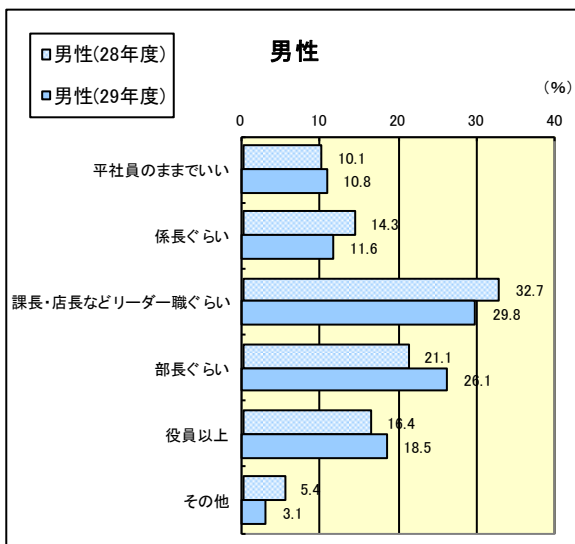


5. どのくらいまで出世したいか？

「課長・店長等のリーダー職」が最も多く 27.2%、次いで「平社員」23.9%、「係長」17.5%の順で、この3年は同様の順位。男女別では、男性は「リーダー職」「部長」「役員以上」、女性は「平社員」「リーダー職」「係長」の順で、男女別の順位もほぼ変わらない。

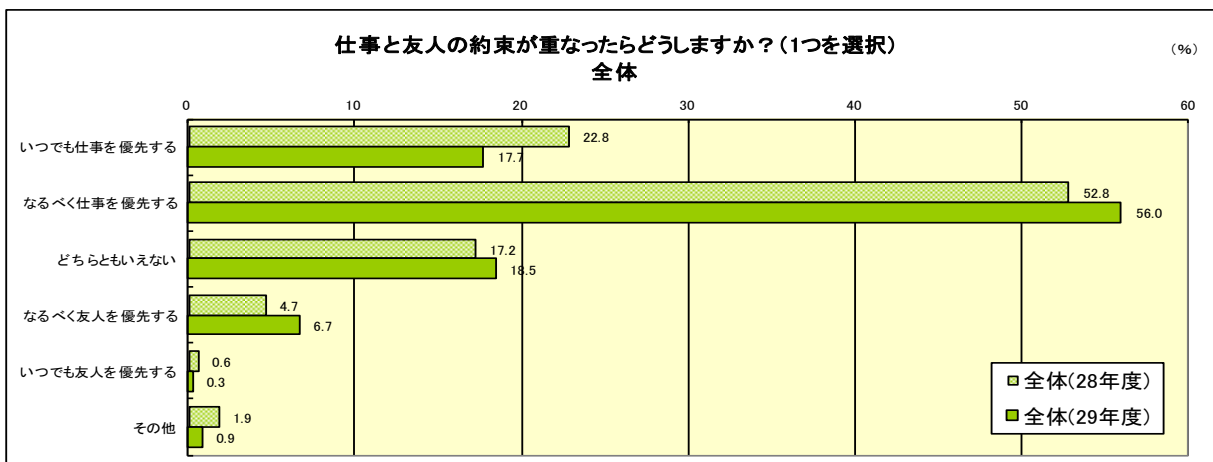
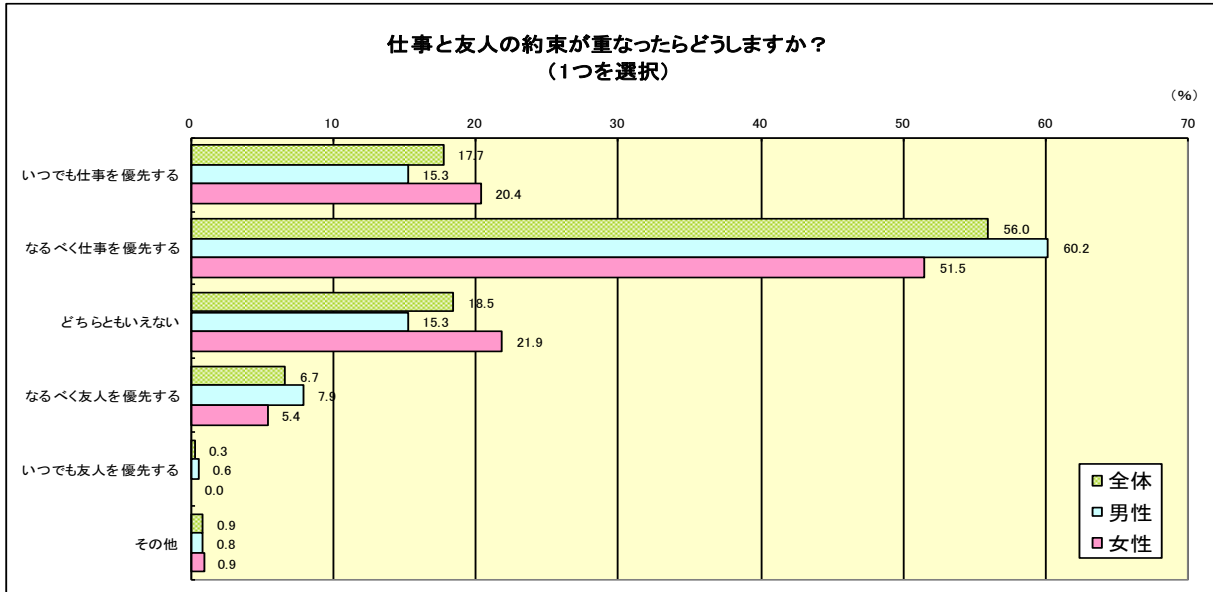


経年推移でみると、男性は「平社員のままでいい」が過去最高の 10.8%。対して女性は「役員以上」が過去最高の 4.3%となり、男性とは対照的な結果となった。男女ともに目指すキャリアが多様になりつつある。

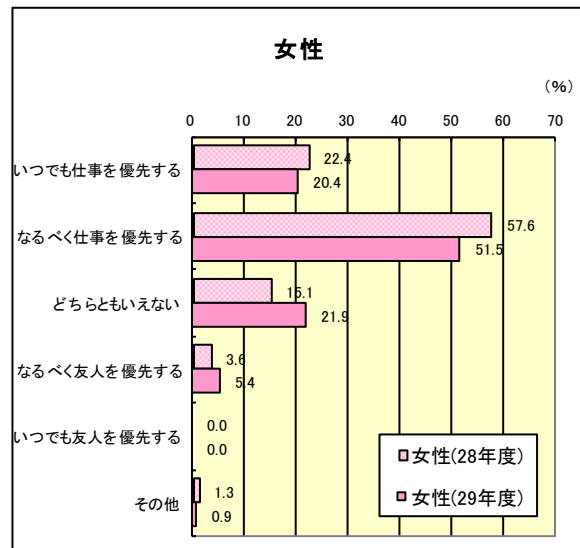
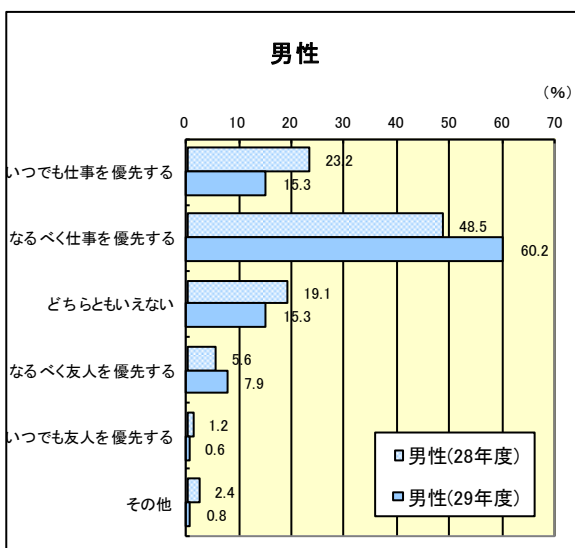


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先」が56.0%で突出して多いのは変わらないが、2位、3位が入れ替わり、「どちらともいえない」が18.5%で2位に。3位になった「いつでも仕事を優先」は17.7%で過去最低。一方、「なるべく友人を優先」は6.7%で過去最高の結果となった。



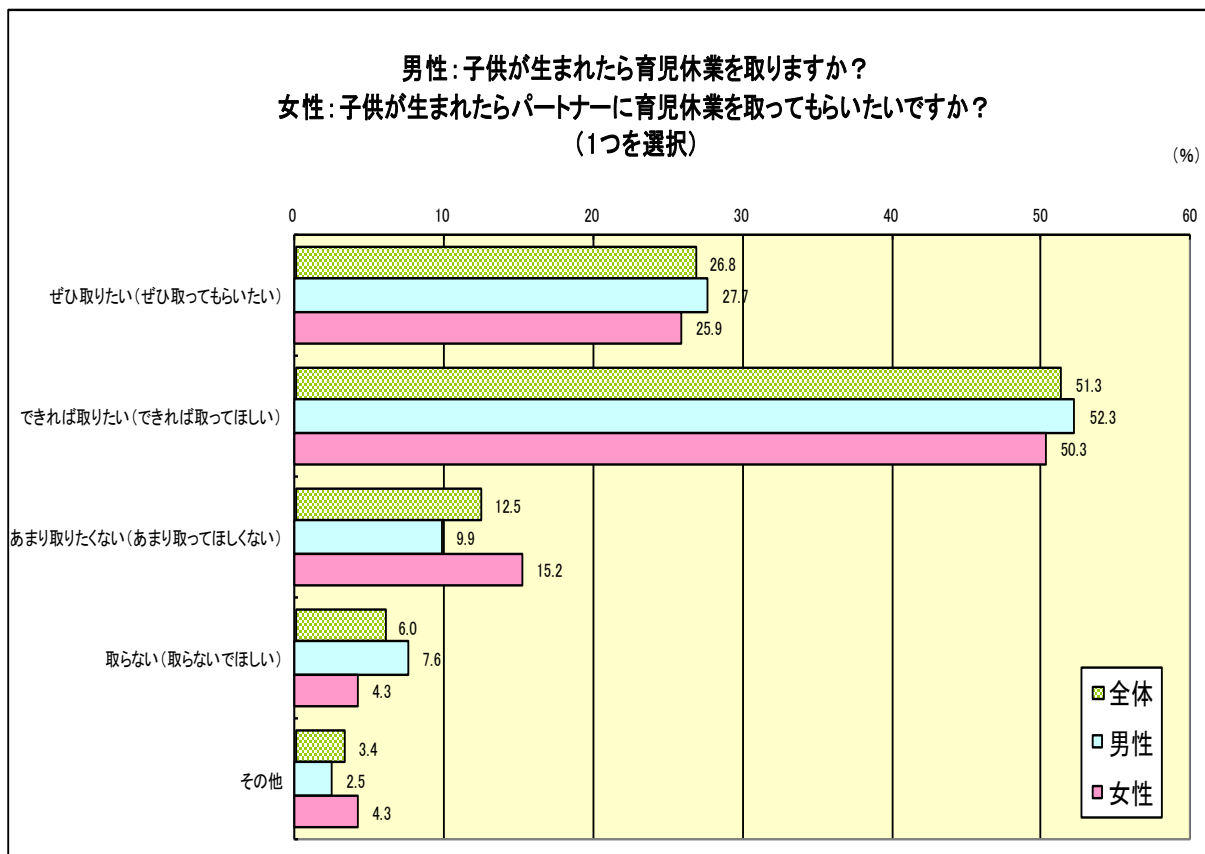
この傾向は男女別でも同様で、特に男性は「いつでも仕事を優先」が過去最低の15.3%となり、7年ぶりの1割台に。女性は「なるべく仕事を優先」が過去最低となり、一方、「どちらともいえない」と「なるべく友人を優先」が過去最高となった。



7. 《新設》男性：子供が生まれたら育児休業を取りますか？

女性：子供が生まれたらパートナーに育児休業を取ってもらいたいですか？

「ぜひ取りたい（ぜひ取ってもらいたい）」「できれば取りたい（できれば取ってほしい）」を合わせると78.1%。約8割の新入社員が男性の育児休暇取得を希望している。この割合は男性のほうが女性より高く、男性80.0%、女性76.2%となった。「その他」では「給料が出るなら取りたい」「状況による」など環境が許せば取るとする記述が多かった。



一方「取らない（取らないでほしい）」「あまり取りたくない（あまり取ってほしくない）」の合計は男性17.5%、女性19.5%。男性のほうが育児休業取得に抵抗がなくなっている様子が見えてくる。

8. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

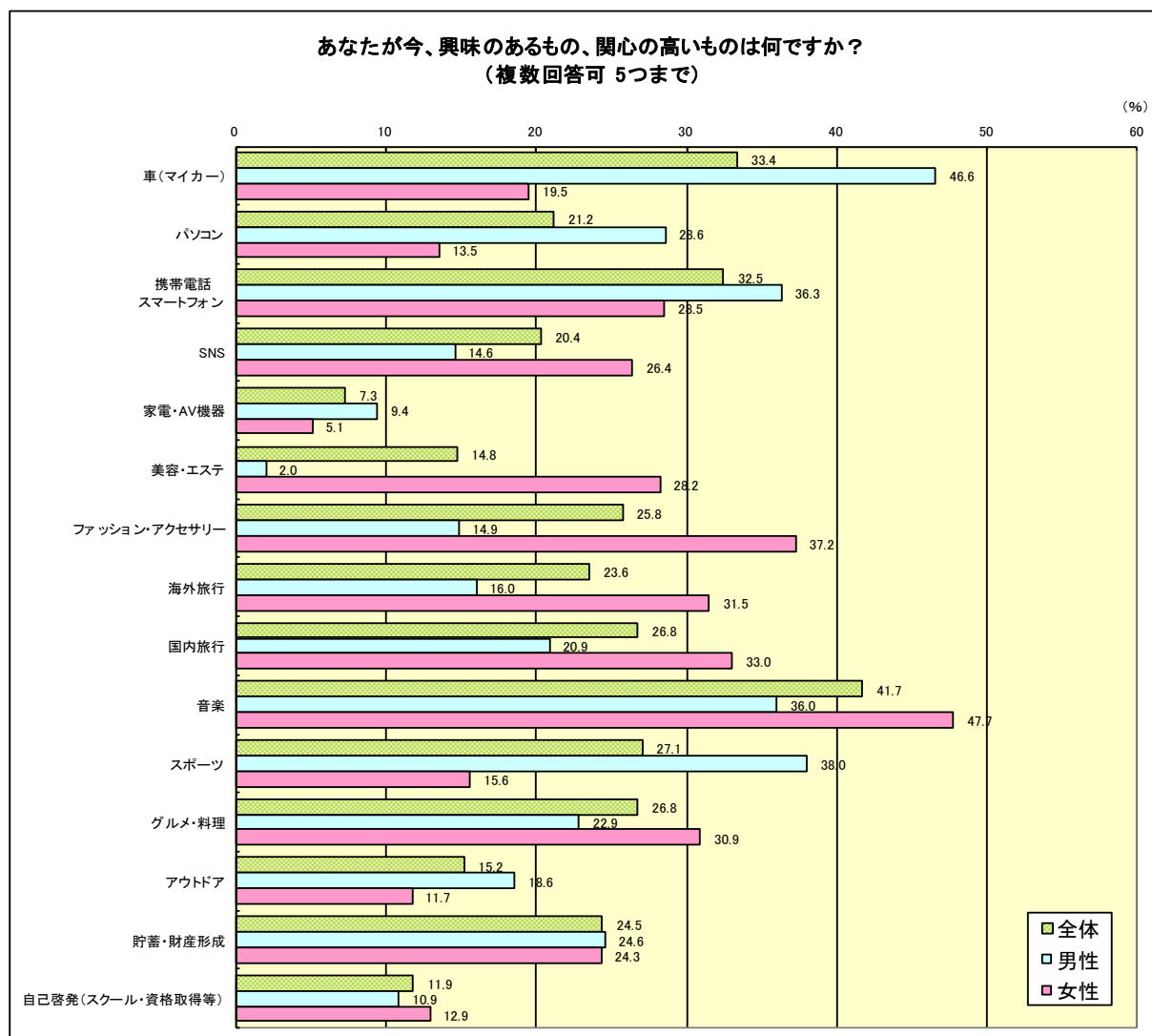
「車（マイカー）」は27年度に首位から転落して以来、3年連続2位。今年は男女ともに過去最低の33.4%となり、車に興味があるのは3人に一人という結果となった。昨年に比べ最も増えたのは、男性が「携帯電話・スマートフォン」で36.3%（昨年度比+3.6）、女性は「SNS」で26.4%（昨年度比+6.7）となり、写真に特化したSNS「インスタグラム」などの流行を反映した結果となった。逆に最も減ったのは、男女ともに「ファッション・アクセサリ」で過去最低となった。

<男性>

①車（マイカー）	46.6%	（昨年度比-0.6）	過去最低
②スポーツ	38.0%	（-0.9）	
③携帯電話・スマートフォン	36.3%	（+3.6）	過去最高
④音楽	36.0%	（+3.3）	
⑤パソコン	28.6%	（-3.0）	

<女性>

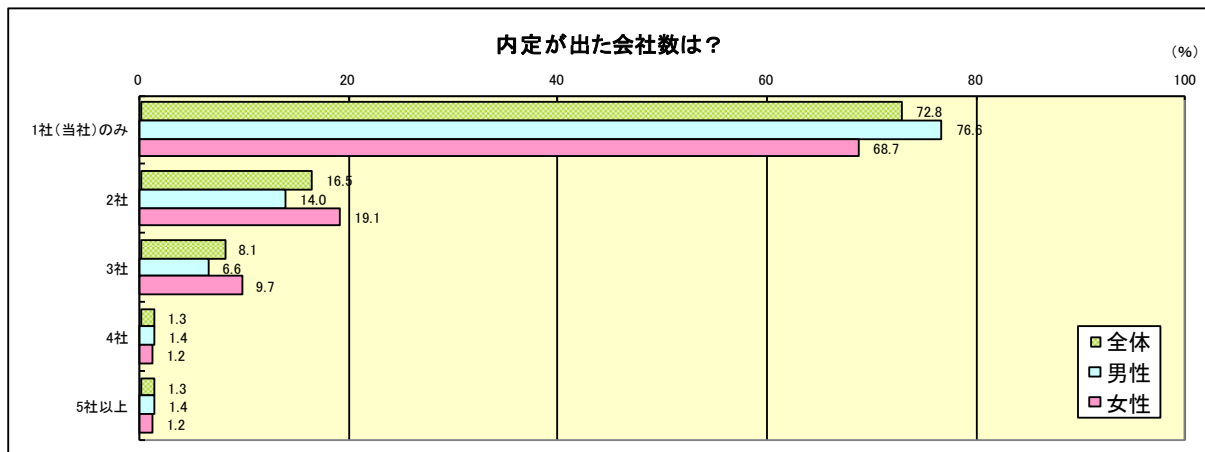
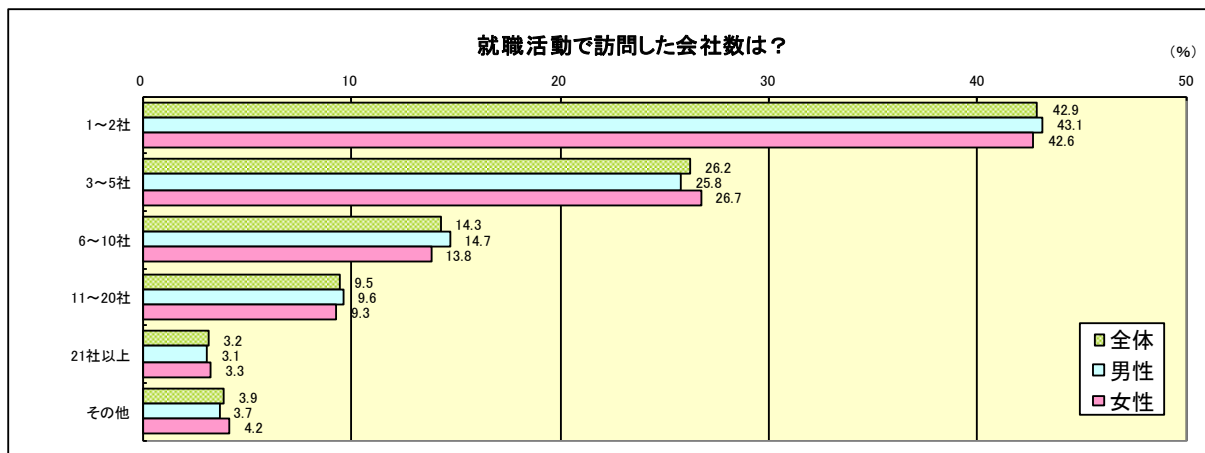
①音楽	47.7%	（昨年度比-2.0）	
②ファッション・アクセサリ	37.2%	（-5.6）	過去最低
③国内旅行	33.0%	（+0.1）	過去最高
④海外旅行	31.5%	（+3.9）	
⑤グルメ・料理	30.9%	（-0.7）	



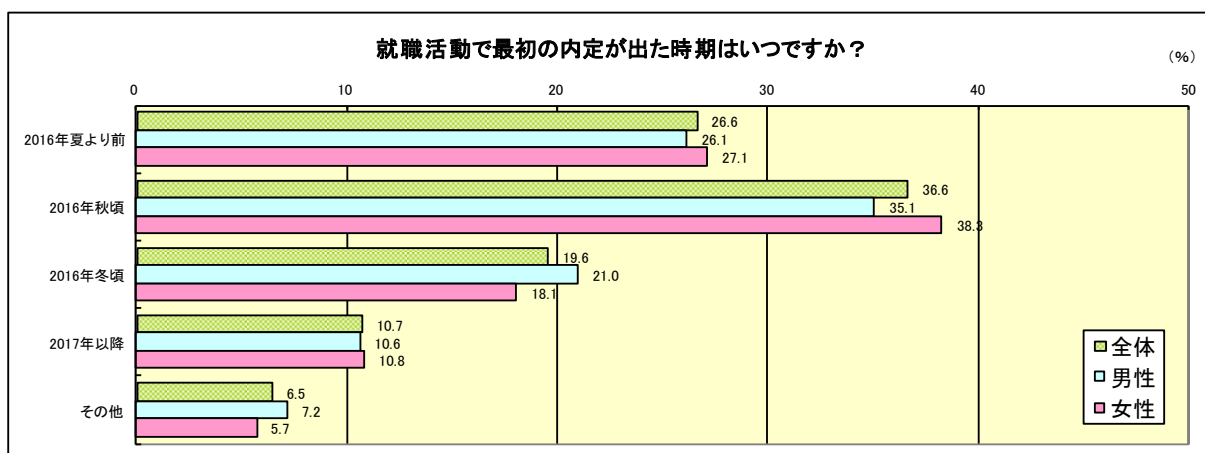
9. 新卒者の就職活動の状況について

新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「1～2社」が最も多く42.9%。次いで「3～5社」26.2%、「6～10社」14.3%と昨年同様の傾向。

内定企業数は例年同様「1社（当社）のみ」「2社」「3社」の順だが、「1社」は過去最低の72.8%。一方、「3社」は過去最高の8.1%となり、売り手市場だった様子がわかる。女性は「2社」「3社」ともに過去最高となった。



内定が最初に出た時期は例年どおり「2016年秋頃」が最も多く、次いで「2016年夏より前」「2016年冬頃」以降の順となった。



以上